

日本語起源の痕跡（単語系統樹=方言・単語家族・動詞活用） アイヌ語地名と関連して

門田英成（アイヌ語地名懇親会）

はじめに

1. アイヌ語と日本語は別系統

アイヌ語地名は「アイヌ語は縄文語を引継いでいる」を仮説としています。
アイヌ語で読み解ける、ことは(アイヌ語≒縄文語)を証明している、いえるともいえます。
しかし、現在、アイヌ語と日本語は、ともに孤立語とされ、別系統の言語とされています。

(アイヌ語と日本語の相違点・共通点)

相違点	共通点
1. アイヌ語と日本語に単語の対応がない 2. 数詞が異なる。 3. 文法的に相違している。 ・子音終わり（閉音節）の単語が多い ・濁音がない ・r が語頭に立つ。 ・二重母音、二重子音の単語がない。 ・動詞の活用がない。 ・過去形、現在形、未来形統の変化がない	・語順が日本語と同じ。 単語を置換えて並べていくと日本語になる ・単語の母音は「アイウエオ」の5つからなる

2. 日本語の起源の痕跡

けれども、『アイヌ語地名』以外にも日本語の起源の痕跡があるのではないか。
特に、方言の動詞の中に、あるのではないか

(1) ヴォヴィン説

本州各地の地名のほか、『万葉集』の東歌と防人歌にや『風土記』にアイヌ語の残存していたことを述べている。

(ロシア生まれ、ハワイ大教授、東京国立国語研究所客員教授)

(2) 梅原猛 動詞の中 動詞の中に70%は、アイヌ語とつながる。

(3) 大出あや子 方言の中 方言の中にアイヌ語が残っている。

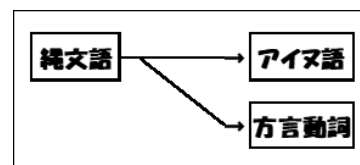
調査方法

『アイヌ語地名』以外にも日本語の起源の痕跡があるのではないか

痕跡発掘法(単語系統樹)

方言・単語家族・動詞活用の単語系統樹にしてみる

- ①方言 大阪弁『机をかいて』
- ②単語家族 アイヌ語と日本語単語家族
- ③動詞活用 言葉を音素で



結果と考察

1. 方言

(1) 大阪弁『机をかいて』？

昨年末、笑い飯哲夫の大阪ラジオ番組での会話の中の言葉です。

長年、阪神間に住んでいますが、初めて聞いた言葉です。しかし、全国にも、しかも、似た言葉が、アイヌ語にもありました。

①大阪弁 机をかいて 「昇く」机を担い、運んで。[イ音便形+て(接続助詞)]

②アイヌ語 かい 背負う kay

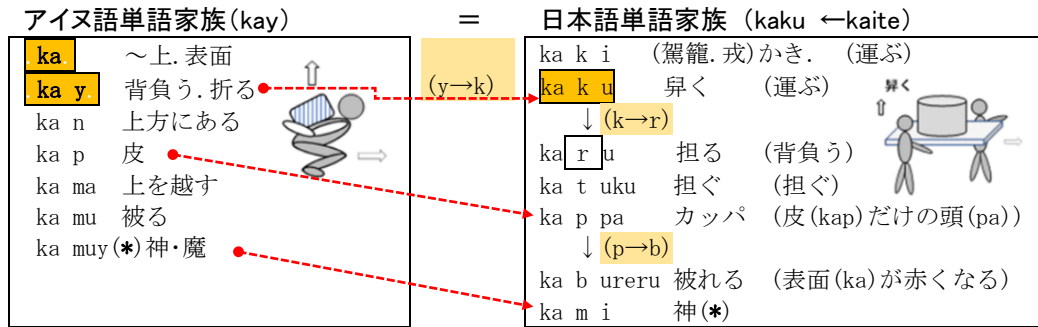
③方言・古語 かく(昇く) 担ぐ、運ぶ kak-u 福井京都大阪兵庫愛媛香川徳島

(2) 文化 昇き山祇園祭 駕籠昇き 戎昇き

2. 単語家族

同じ語幹を共有する単語の群れを「単語家族」と呼ぶ、とされています(片山氏は「語根」)

アイヌ語と日本語単語家族



* (アイヌ語 kamuy 神は、kamu-I 蔽い被さる-もの. 古くは魔)

3. 動詞活用

仮名の音素

仮名の呪縛(言葉は音)

「かく」動詞の活用は、50音「仮名」で表記すると、「かきくけこ」と五段活用しています。
 「仮名」は、子音+母音で出来ています。しかし、言葉は音です。
 「かきくけこ」は、音でみると音素「k・a・k・i・k・u・k・e・k・o」と、なります。
 「仮名の呪縛」から解放されて、動詞活用を音素 abc アルファベット表記でみると、
 表②のように「**語幹+接辞**」とみることが出来ます。

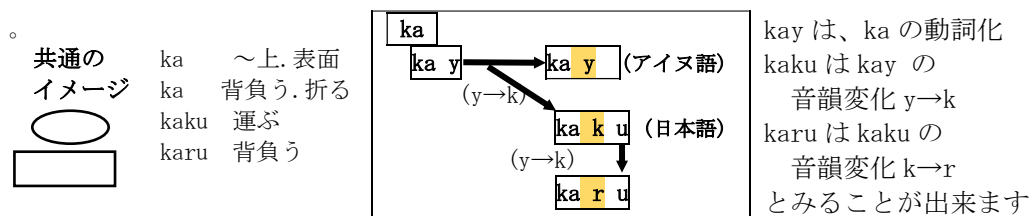
仮名の音素



4. 単語系統樹 (表①参照)

表①は、片山龍峯氏提唱「単語家族」に基づいて作成した「かい」の単語の系統樹です。

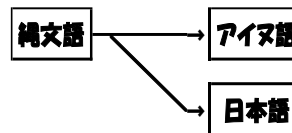
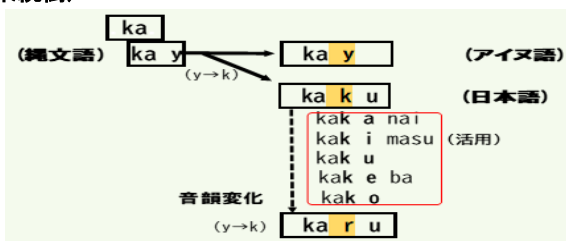
kay・かく.単語系統樹



(「仮名の呪縛」という言葉は、「国広哲弥『日本語学を斬る』研究社 2015。」より)

結果と考察

日本語の起源の痕跡
(単語系統樹)



	語幹			(通説) ㊦語の㊦語との相違点
1. 単語家族	①共通の語幹	㊦語と㊦語共通	共通 ←	1. ㊦語と単語の対応がない
2. 動詞活用	②語幹+接辞	動詞の活用がない	共通 ←	2. ㊦語、動詞の活用がない
	③語幹末子音	語幹は子音終わり	共通 ←	3. ㊦語、子音終わり単語が多い

今日のゲノム解析では、アイヌの人は、縄文を色濃く受け継いでいる、とされています。アイヌ語地名は、ゲノム解析をもとに、「アイヌ語と日本語は、縄文語を祖語として、弥生に入り日本語は変化したが、アイヌ語は縄文語を純粋に残している」を仮説として、地名を解釈しています。つまり、地名の中に縄文語が残っていることを示しています。

そうであるならば、地名以外にも、日本語の中に縄文語の痕跡が残っていてもおかしくないのではないかと。

一つは、記紀、万葉集とくに東国と防人の歌、風土記そして方言の中には残されているようである。日本語では、解釈できない言葉が、アイヌ語では解釈出来るものがある。

他に、動詞の中にあるのではないかと。名詞は置き換わりやすいが、動詞は置き換わりにくい。それではと、方言の動詞の中にあるのではないかと、ということで、昨年末、ラジオで耳にした「あれっ」と思った言葉、大阪弁「机をかいて」を取り上げてみました。言語学では、アイヌ語と日本語は別系等の言語とされています。

しかしながら、言葉を、仮名ではなく、音としてとらえ、共通の語幹の集まりの「単語家族」を通してみると、アイヌ語と日本語の単語は繋がっていることが見えてきます。

また、動詞の活用についても、仮名ではなく、音としてとらえると、「語幹+接辞」と捉えることが出来ます。その語幹は子音終わり。現在の動詞活用の現象は、日本語の開音節化に伴う仮名表記により、一種の音韻変化、とみることが出来るのではないのでしょうか。もともと動詞は、アイヌ語と同様、子音終わりの単語で、活用もなかったことを窺わせています。

以上のことは、アイヌ語と日本語との相違点とされている、

- ①. アイヌ語と日本語に基本的単語の対応がない。
- ②. 動詞の活用がない。
- ③. 子音終わり (閉音節) の単語が多い

が解消されています。

つまり、「単語家族」「動詞活用」の系統樹から、アイヌ語と日本語の祖語である縄文語の変化、「日本語の起源の痕跡」をみる事が出来るのではないのでしょうか。

このことは、アイヌ語地名解釈の強い傍証にもなる、といえます。

以上

(参考文献)

2004 知里真志保「地名アイヌ語小辞典」北海道出版企画センター
 1993. 片山龍峯「日本語とアイヌ語」すずさわ書店
 2000. 梅原猛「日本の深層」小学館 1989 梅原猛, 吉村隆明「日本の原像」中央公論
 2005. 鈴木健「縄文語から大和語へ」新読書社
 2009. 渡部正路「大和言葉の作り方」叢文社
 2015. 国広哲弥「日本語学を斬る」研究社
 2017. 永田良茂「アイヌ語地名懇親会会誌」

